

おてら

秋彼岸法要会

九月十九日～二十五日

二十二日(木)

彼岸中日法要

午前十一時より

正午 おとき・法話

おときも椅子席になっております

二十四日(土)

永代経法要

午後七時より

先祖への供養は
私への供養

お彼岸中にお墓参りをしましょう

ご本尊様にもお参りいたしましょう

常例十六日講
毎月十六日午後一時より
お経練習・法話会
写経会
毎月第二・四火曜日
午後一時より

呼びかけ

位職 蒲原 靈英

少し前、「第三者の厳しい目」で見てもらうと何回も言いながら公職を追われた方がいました。結局、「第三者の厳しい目」は自分の息のかかった「身の甘い目」だったわけですが、一番何もかも見ることができるのは誰でしょう。私たち浄土真宗ではそれは阿弥陀様であると考えます。「阿弥陀様は見てござる、聞いてござる、知ってござるなんられ」と、父である前住職はお祖父様から困炉裏端いりりばたでよく聞かされたそうです。

では阿弥陀様はどのような仏様なのでしょう。「阿弥陀」はサンスクリット語で「アミターバー」＝「無限の光」あるいは「アミターユス」＝「無限の寿命」の意味です。ですから、阿弥陀様は無限の命を持ち無限の光を照らす仏様で、私たちを常に照らし続けて下さっています。光に照らされると何が見えますか。影が見えます。ですから、阿弥陀様から私の心が照らされると、私の心の影が見えてきます。すなわち、その影が煩惱ぼんのうです。普段は口に出したり行動に起こしたりはしなくても、どうしても心の中に持っているドロドロとした汚い心、そして、そういう心を持つているでしょうか。たまたま己おのれの真の姿です。私たちは、そういう己の真の姿を知りたくないし、たとえその存在を知っていても見たくないものです。ですから、普段は知らんぷりをし、見ようとしなくて生活しています。しかし、阿弥陀様は常に私たちを照らし続け、「己の真の姿を見よ。己の愚かさおろそに気づけよ」と呼びかけて下さっています。

心静かに「南無阿弥陀仏」とお念仏を称となえていると、その呼びかけが聞こえてきます。そして、嫌でも己の真の姿と対峙たいじすると、落胆らくたん、後悔こうかい、反省し、ではこれからどうしていけば良いのかと考えたり、あるいは周りの人たちへの感謝の念が生じたりするものです。その作業を繰り返す中で、私たちは少しずつ「あるべき姿」へ近付くことができるのです。でも、まず阿弥陀様の呼びかけを知らず、また知っていても耳を傾けようとしなければ、何の進歩も無いまま唯々ただただ空しく一生を終えるのみです。

まずは、お彼岸を阿弥陀様の呼びかけを聞かせていただく尊い縁とよとし、毎日の朝夕手を合わせる生活を実践してみたらいかがでしょうか。合掌

新盆法要



わが国は、戦後、急速な経済成長を遂げ、高度経済成長の時代を迎えました。この間に、社会の急激な変化に伴って、人々の生活様式や価値観も大きく変わりました。その結果、伝統的な文化や宗教の役割も大きく変遷を遂げてきました。特に、盆盆会や盆踊りなどの行事は、地域コミュニティの絆を深める重要な役割を果たしてきました。しかし、近年は少子高齢化が進み、盆盆会に参加できる人が減り、盆盆会が寂しくなる傾向があります。このため、盆盆会を復活させ、地域コミュニティを活性化させることが求められています。本願寺は、盆盆会を通じて、人々の心を癒やし、絆を深め、地域社会の発展に貢献することを使命としています。本願寺の盆盆会は、伝統的な盆盆会を継承し、現代のニーズに合わせて進化させていく予定です。盆盆会を通じて、人々の心を癒やし、絆を深め、地域社会の発展に貢献することを使命としています。

第10回 市民のための仏教講座

仏教が救う「現代」

混迷する現代
価値観が揺らぐ社会に
向き合うために
今、考えるべき事は。

特別講師 宮崎哲弥

平成28年 10月18日(火)
午後6時30分(6時間場/8時30分終了予定)
新潟県民会館大ホール

入場料 1000円
(当日1200円)

主催 ●新潟市仏教会
[お問い合わせ先]
新潟市仏教会事務局
(小井一三会長)
TEL.025-249-5513

秋の日帰りバスツアー

10月6日(木)

村上 町屋めぐり

会費 ￥6,000-

ご兄弟姉妹ご友人等お誘い合わせの上
ご参加をお待ちしています!



9:00 浄光寺発
10:00 イヨボヤ会館 (サケ会館)
12:00-14:00 割烹 新多久 (昼食・休憩)

岩船港鮮魚センター
ぶどう狩り (聖籠町)
17:00 浄光寺着



お申込は お寺へ 025-229-0629